

労働安全コンサルタント試験受験記



四電エンジニアリング株式会社

一宮 礼人

(ICHIMIYA AYATO)

機械部門，総合技術監理部門

1. 受験動機

当社の業種は、建設業であり、営業範囲は発電設備全般に及ぶ。私の主な業務内容は、火力発電に係わる部署の安全品質管理・要員調整・収支分析などであり、部署を総括する役目を担っている。また、社員は約1,100名在籍しているが、技術士は5名のみであり、知名度が低い。そこで、業務の傍ら技術士育成に取り組み、知名度の向上を図っている。

労働災害件数は20件／年程度で推移しており、数件の重症災害も発生している。この状況を憂慮し、安全部を筆頭に災害防止に向けて取り組んでいる。私は、火力部門の安全管理を担っており、安全部と連携して各現場をサポートしている。このような状況下において、災害リスクの低減に向け、技術と安全の両面から専門家としての的確に提言する為に、当該試験の受験を決意した。

2. 試験概要

当該試験は、試験規模が小さく参考図書など試験情報も少ない。受験を検討される方に向け、以下に概要を示す。

- ・労働安全コンサルタントとは

厚生労働大臣が認めた労働安全の専門家として、労働者の安全水準の向上のため、事業場の診断・指導を行うもの。

- ・試験区分

【機械】 【電気】 【化学】 【土木】 【建築】

- ・受験資格

【実務経験】 【技術士】 【1級建築士】 他

- ・受験者数および合格率（令和3年度実績）

筆記試験受験者	1,290人	筆記試験合格者	517人		
口述試験受験者	511人	口述試験合格者	414人	最終合格率	32.1%

・筆記試験科目

【産業安全一般（択一）】 【産業安全関係法令（択一）】 【〇〇安全（記述）】

〇〇には，試験区分のいずれかが該当する。

・記述試験科目免除

技術士などの一定の資格保有者は，一部の試験科目を免除する事ができる。特に，【〇〇安全】は，論述問題（問1，2）と計算問題（問3，4）が2題出題される。この2種の問題からそれぞれ1問（計2問）を選択し，回答する。試験開始時刻が14:30であり，それまでに既に2時間を費やしていることから，この科目の免除を受けることで，他の科目（択一のみとなる）に注力することができる。主な記述科目免除資格は下記。

専門科目	技術士資格による免除	その他資格による免除
機械安全	機械部門，船舶・海洋部門，航空・宇宙部門，金属部門	—
電気安全	電気電子部門	—
化学安全	化学部門，農業部門（農業・食品）	—
土木安全	資源工学部門，建設部門，農業部門（農業農村工学），森林部門（森林土木）	1級土木施工管理技士
建築安全	—	1級建築施工管理技士

・試験日程（令和3年度実績）

願書受付 令和3年7月5日～8月4日

筆記試験 令和3年10月19日（火）

口述試験 令和4年1月12日～13日（大阪），25日～27日（東京）

・私の受験科目

【機械安全】を選択し，技術士（機械）により記述試験を免除申請して受験した。

3. 筆記試験

・試験日時，場所

令和3年10月19日（火）中国四国安全衛生センター（広島県福山市）

【産業安全一般】（試験時間 10:00～12:00）（問題30問）

【産業安全関係法令】（試験時間 13:00～14:00）（問題15問）

【機械安全】（免除）（試験時間 14:30～16:30）（問題 2問）

合格判定は，各科目40点以上，合計概ね60点以上

- ・勉強方法

過去問8年分を，下記サイトにて反復勉強

実務家のための労働安全衛生のサイト

<https://osh-management.com/#gsc.tab=0>

4. 口述試験

- ・試験日時，場所

令和4年1月13日（木）大阪府立労働センター（大阪市）

（試験時間 11:40～11:50）

合格判定は，4段階評価の上位2ランク以上

- ・勉強方法

想定問答集作成（300問）

模擬口頭試験受験（1回，Web）

【参考図書】

- ・新しい時代の安全管理のすべて 大関 親 著
- ・安全の指標（令和3年度） 中央労働災害防止協会 著
- ・安全はマネジメント リスクアセスメントの活かし方 濱田 勉 著

- ・諮問項目

- ・受験動機、経歴
- ・過去の災害事例（体験を踏まえて）
- ・最近の災害事例（体験を踏まえて）
- ・フェイルセーフとは
- ・フルプルーフとは
- ・外国人労働者増加への対策は
- ・機械のリスクアセスメントの手法は
- ・ヒューマンファクターにおける近道行為への対策は

【感想】

試験官は3名であり，役割分担が決まっていた。試験官とコミュニケーションをとり，会話をする事が重要。この辺りは，技術士口頭試験と大差なく，技術士受験生時代の経験が非常に役立つ。

採点方法は，技術士試験と同様に加点方式と思われる。これは，規定の試験時間である15分を待たずに10分間で終了したことから推測。

5. 合格、登録

【合格発表】

- ・令和4年3月22日（火）官報にて

【登録】

- ・令和4年4月8日（金）登録

6. 試験を通して

勉強を通して、「安全」に関する理解が深まった。「安全」は、総監における5管理の一つでもある。総監ではリスクマネジメントについて問われることが多いが、本試験ではリスクアセスメントに注力されている。これは、厚生労働省主導により労働安全衛生マネジメントシステム（OSHMS）を運用していることによる。OSHMSは、安全衛生活動を組織的かつ体系的に運用管理する仕組みであり、その中核は、リスクアセスメントを通したPDCAサイクルのスパイラルアップである。従って、口述試験においても、具体的な災害事例を踏まえ、分析・評価・活用など、実務を担う安全のプロフェッショナルとしての提言が求められている。

当社では、大規模案件の着手前にリスクアセスメントを実施している。資格を活かし、安全品質管理者として労働災害リスクの低減策を講じていく。また、将来は他社の安全指導にも寄与すべく、安全技術の向上に邁進する所存である。

以 上